



今週の動意銘柄

enish 5連騰で最高値

「櫻のキセキ」の新ガチャ開始

enish(3667)が5連騰、この日も最高値を更新した。樺坂46日向坂46公式ゲームアプリ



とメンバーが起こした奇跡をたどるドキュメンタリーライブパズルゲーム。

太洋物牛肉関税引下げ

26日、太洋物産(9941)がストゥプ高、約7カ月ぶりに年初来高値を更新した。安倍晋三首相とトランプ米大統領

領が日米貿易交渉で基本合意、米国産牛肉の輸入関税を現行の38.5%から段階的に引き下げ、2033年4月にTPPと同水準の9%引き下げることから、農畜産物専門商社の同社は取り扱い拡大が期待された。米国産牛肉の輸入関税引下げでメリットを受ける林兼産業(2286)や吉野家ホールディングス(9861)も高い。

アンジェスが急伸

26日、アンジェス(4563)が急伸、一気に900円台に乗せた。【高野恭壽の株式情報】これだけでや!! で再度紹介している銘柄で、2019.8.21(通巻2311号)で「コラテジェン」の製造が近いとの観測や海外での製造への期待、エボラ出血熱治療薬の開発などを紹介している。

曙ブレ再建進展期待

27日、曙ブレキ工業(7238)が急反発、一時上昇率は20%に迫り、東証1部値上がり率トップに立った。元日本電産常務執行役員の宮地康弘氏が社長兼CEO就任すると発表、外部からトップを招き入れ、経営陣を刷新

アンジェス出尽し感

27日、アンジェス(4563)がストゥプ安。厚生労働省が国内初の遺伝子治療薬「コラテジェン」を9月から公的医療保険の適用対象とする方針を固めたことが伝わったが、当面の材料出尽くし

自動車高関税否定

27日、SUBARU(7270)が年初来高値を更新、トヨタ自動車(7203)やホンダ(7267)を含めて自動車株が買われた。トランプ米大統領が日本車への高関税を「現時点では考えていない」と語ったことを好感。ただ、「やろうと思えば後日できる」と語ったとも報じており、引き続き警戒感が高まりそうだ。

正直いいさんの株で大判小判

30日東京市場は反発しました。29日のニューヨーク市場で3指数が揃って続伸したことや為替が1ドル106円40銭台で落ち着いていること、取引開始前に発表された7月鉱工業生産指数速報が市場予想を上回ったことで安心感が拡がり、輸出系の主力を中心に幅広く買われていきます。米中ともに前向きな姿勢を示したことで過度な不安は後退していき、国が歩み寄るには様々なハードルがあり、引き続き慎重な投資スタンスは必要です。9月2日のレイバール場ではサマーバが戻ってくるこ先物や主力株が増える可能性が相場の膠着状態からの脱却を期待しています。ただ、6日に8月の米雇用統計の発表を控え、それまでは中小型材料系が中心と見ています。花咲翁



JVCkWV おり運転罪

28日、JVCケンウッド(6632)が急反発。一部報道で自民党が交通安全対策特別委員会を開催し、おり運転罪新設の検討に入ったと伝わったこと、思惑買いが向かった。ドライブレコーダーがおり運転の重要な証拠になるとの見があり、普及が加速すると期待された。





# 9月相場は上昇基調

## 出来高増加が最大の条件

### 国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

東京株式市場が本格的に回復するには、東証1部の出来高の増加が最大の要因である。その根拠として、過去1年間の東証1部の出来高を検証すると、昨年7月は1日平均で約13・5万株、8月は約12・9万株、9月は約14・5万株、10月は約14・9万株、11月は約14・6万株、12月は約15・4万株であった。そして今年に入り1月は約12・6万株、2月は約12・4万株、3月は約12・4万株、4月は約11・6万株、5月は約13・9万株、6月は約11・0万株、そして7月は10万株を割り込み約9・9万株であった。東証1部の出来高が今年に入り、急激に減少していることが読み取れる。

ただ8月に入り出来高は1日平均約11・5万株と回復していることから、今後の日々の出来高を見守る必要がある。

9月の相場を展望するにあたり、過去5年間の7月、8月、9月における日経平均を検証した。2014年は8月8日が安値で9月25日が高値となり、安値から約11%上昇した。2015年は高値が7月21日で安値が9月29日で、下落率は約23%であった。2016年は7月8日が安値で9月6日が高値となり、約13%の上昇であった。2017年は9月8日が安値で9月25日が高値となり、約6%の上昇であった。そして昨年は7月5日が安値で9月28日が高値となり、約12%の上昇であった。

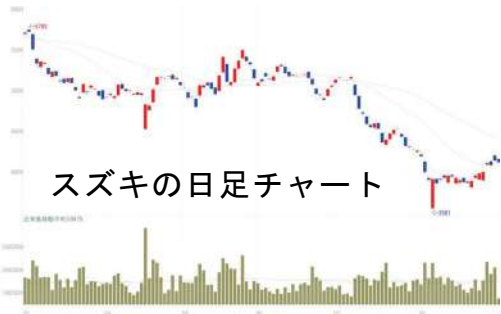
# 相場展望

過去5年の検証において、9月相場は上昇基調であった。今年はどうか、出来高増に期待する。

## スズキは資本提携

### トヨタと次世代技術開発加速

29日、スズキ(7269)が反発。28日取引終了後、トヨタ自動車(7203)と資本提携すると発表したことが好感された。トヨタがスズキの発行済み株式数の4・94%にあたる2400万株を総額約960億円を取得、スズキもトヨタの発行済み株式数の0・2%を取得して株式を持ち合う。



これまでもハイブリッド車開発などに共

## セルシード角膜移植で思惑

再生医療開発を手掛ける同社株に思惑的な買いが入っている。

### パーク24直近3カ月失速

30日、パーク24(4666)急落。19年10月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益14

同で取り組んできたが、資本面でも関係強化することで、自動運転などでも協業、次世代技術の開発を加速するとしている。

週末30日、セルシード(7776)がストップ高。大阪大学がiPS細胞から作ったシート状の角膜細胞を損傷した患者に初めて移植したと発表したこと、細胞シート培養皿による細胞加工受託と再生医療開発を手掛ける同社株に思惑的な買いが入っている。

### ワイヤレスG踏み上げ

30日、ワイヤレスゲート(9419)がストップ高で、年初来高値更新。IoTセキュリティ分野でのビジネスチャンス拡大期待を手掛かりに短期資金の攻勢が続いており、売り残、買い株超過で、踏み上げ相場の様相を呈してきた。

## 今週の動意銘柄

## 潮流

## 発展は現状認識から始まる

## 国民は声を上げ怒りぶつける

marKet / bAnk



義氏はいう。「日本はかつて豊かだったのではなく、もともと貧しかったのだ」とも。事実、日本の労働生産性は先進各国最下位で、この50年間ほとんど変わっていない。

世界競争力ランキングは30位と1997年以降では最低（IMD）。平均賃金はOECD加盟35カ国中18位。相対的貧困率は38カ国中27位。教育に対する公的支出のGDP比は43カ国中40位。年金の所得代替率は50カ国中41位。障害者への公的支出のGDP費は37カ国中32位。失業に対する公的支出のGDP比は34カ国中31位（OECD）など、先進国とはとてもいえない。

日本はかつて豊かな国だったが、近年は競争力の低下や人口減少によって経済力が低下しているというのが一般的な捉え方。しかし、現実とは違う。日本経済がバブル化した1980年代には1人あたりのGDP（国内総生産）が世界2位になったこともあるが、それはほんの一瞬に過ぎない。日本が輸出大国であるという話も過大評価されている。2017年における世界輸出に占める日本のシェアは3.8%しかなく、1位の中国（10.6%）、2位の米国（10.

「日本はもはや後進国であると認める勇気を持つ」とソフトバンクの孫正義氏はいう。

2%)、3位のドイツ(7.7%)と比較するとかなり小さい。日本は再び貧しい時代に戻りつつあることを認識すべきだ。

日本は後進国に転落したという事実を受け止めることから始まる。

今の生活や日本経済

が当然のように、何の疑問や不満を感じないか、あきらめてしまっていることに恐怖心を覚える。孫氏は日本の底力を信じているからこそ警鐘を鳴らしているのだ。ゆとり教育によって学校は土曜日が休日になり、学力が低下。塾に通える子供と通えない子供の学力の差が拡大。やがて、賃金の格差に繋がっていく。THE世界大学ランキング2017年では、東大は46位。京大が74位、他の国内の大学は200位圏外だ。このような状況でも日本は失業率が低く、他の国より平和で安心だから良いと考えている人が多い。現状に不満があっても他の人も同じだから仕方ないと思ってしまう。日本が後進国に陥ってしまったのは政府の責任であることを国民は声を上げて怒りをぶつけなければ日本は変わらない。

潮流銘柄はシステムサポート（4396）、ブロードバンドタワー（3776）、ステムリム（4599）。

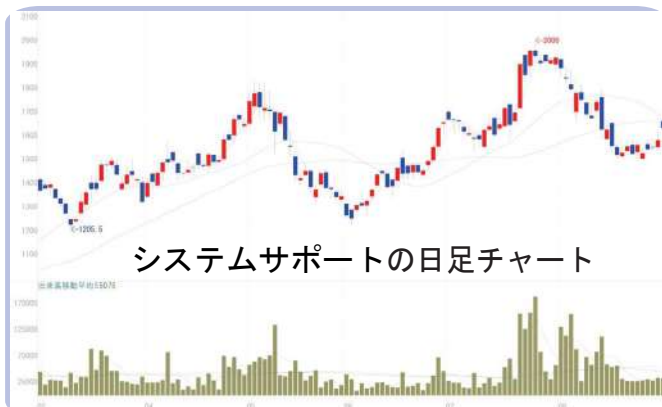
ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

後進国におちいった日本





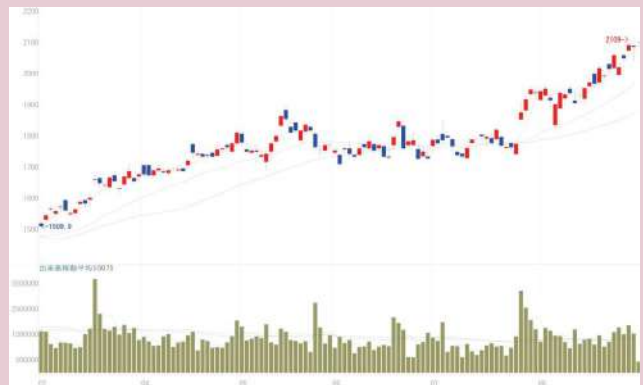
# チャートから読む 騰落銘柄

## NTTドコモ (9437)



50日線を下値サポートラインに底堅い動き継続。7月25日の2659円や8月20日の2665.5円を明確に抜けてくれば、3000円奪回から昨年9月28日高値3095円を目指す動きを期待。

## NRI (4307)



1Q好決算発表を機に下値を切り上げ、年初来高値を更新。月足陰転を回避し、大勢上昇トレンドのなか一段高へ。好業績に加え、信用倍率0.46倍、貸借倍率0.09倍の好取組みも株価を押し上げる。

## ワタミ (7522)



8月14日の高値1721円から26日の年初来安値1355円まで短期急落。その後も戻り鈍く、中期的に18年12月25日安値1167円が意識される。国内収益改善も海外外食事業の苦戦継続が不安。

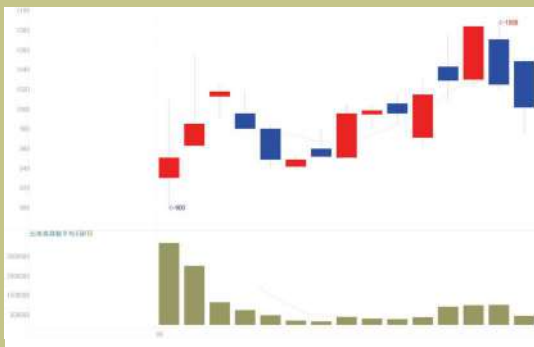
## エコモット (3987)



1Q赤字拡大を嫌気、マド空け急落のあとといったん下げ渋っていたが、急降下してきた5日線に上値を抑えられ一段安へ。1月に付けた安値を割り込み、次は最安値850円まで下値のフシはない。

# 今週の

# 活躍期待銘柄



## ステムリム(4599)

### 再生医療関連として見直す

公開価格を奪回し需給改善

展開が注目される。今後の品を開発を進めており、今後の展開が注目される。

ステムリム(4599)が出直り基調にあり見直してみたい。同社は8月9日に東証マザーズ市場に新規上場、地合い悪などにより、公開価格1000円を7・0%下回る930円で初値を形成。その後、900円まで売られたものの、公募組の処分売りなどをこなしながら公開価格を奪回しており、短期的な需給改善から今後は、バイオ関連として評価する局面だろう。

同社は生体内に存在する幹細胞を活性化し、損傷組織の再生を誘導する医薬品・医療機器や遺伝子治療などの製品の研究、開発、製造、販売を展開、再生医療分野での評価は高い。生体内に存在する幹細胞を、体外に取り出すことなく、怪我や病気で損傷した組織に局所動員し、機能的組織再生を誘導する医薬品の開発を進めており、今後の展開が注目される。

### 公開価格を奪回し需給改善



## バンクオブイノベ(4393)

### 海外配信開始織り込む動き

増収効果で増益幅拡大期待

増益幅の大幅な拡大が期待される。

バンク・オブ・イノベーション(4393)は8月13日に付けた上場来高値3350円から19日安値1902円まで4割強の押し目を入れスピード調整一巡、25日線割れから急速に出直ってきた。スマホゲーム「幻獣契約クリプトラクト」を台湾・香港・マカオ向けに「幻獣契約Crypttract」として正式配信を開始。国内では15年2月の配信開始から累計1200万ダウンロードを突破するヒット作で期待は強い。すでに事前登録者数は35万人を超えており、株価は収益貢献を織り込む動きとなってきた。

19年9月期第3四半期はプロモーション効果により、減収ながら営業利益4億8300万円(前年同期比28・9%増)と大幅増益で着地しており、通期は増収効果で増益幅の大幅な拡大が期待される。

### 増収効果で増益幅拡大期待

いったん戻りを試す

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



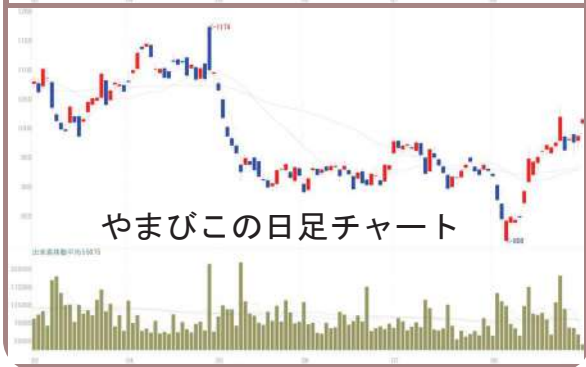
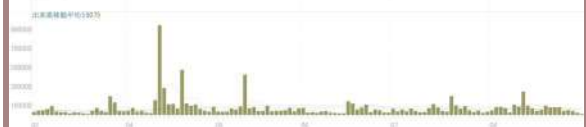
高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

8月最終週も引き続き、上値の重い動きになっていました。日経平均では2万円を割らないものの、2万5000円を抜ける

と戻り売りに押される展開で、これに關しては多くの評論家やストラテジストなどが「衰退した日本に魅力がなくなっているからだ」とのよう論評が多くなっています。この意見に關して筆者は完全には否定しませんが、米國に關しても大統領という最高権力者が、株価が売られ過ぎのタイミングではポジティブ内容を、買われ過ぎたタイミ

W底形成のテックファーム

ングではネガティブな内容のツイートを、マーケットに過度な影響を与えています。このような安易な行動に多くの投資家が嫌気をさして、商いは盛り上がりだうでは2万6000円を抜けれない状況になっています。世界の多くの指導者が自國主義を過度に貫いている状況が、世界の株式市場に悪影響を及ぼしており、このような状況がある程度正常化しないと、多くの投資家が株式市場に回帰しないと思っっています。ただ、中国の商務省は貿易緊張の激化に反対し、米國との貿易戦争を冷静に解決して現状では報復しない意向であることが報じられ、トランプ米大統領も貿易を巡る米中の対立解消に向けて取り組む姿勢が報じられました。これにより29日のニューヨーク市場は大幅高しており、米中兩國の危機意識が高まれば、



一旦は戻りを試すのではないかと見えています。何度かこの欄で紹介しているテックファーム(3625)がW底形成になりました。カジノの法制化も最終段階であり、引き続き要注目です。また、日清食品ホールディングス(2897)が反発に転じていました。自動車では日野自動車(7205)やジリジリと下値を切り上げているリコー(7752)、小物ではやまびこ(6250)の動きにも注目しています。

高野恭壽公式ホームページ  
高野恭壽の株式市場情報  
これでどや!!  
https://marketpress.jp/  
kabu-takano/  
毎日情報を配信中!



# 星野三太郎の株街往来

## ～負のスパイラル～

9月に近

づくにつれて幾分か気温が低下して、ようやく秋の気配を感じるようになってきた。それでも地獄の暑さの記憶から秋支度をする気分にはならないが、今年は10月からの消費増税が控えていることから、ボロボロになったスーツを前倒しで買うか、それとも買い替えずにこのままもう1シーズン過ごすか悩んでいるところだ。

10月は消費増税だけでなく、スマホの端末割引上限2万円省令も予定され、値上げラッシュだ。軽減税率が導入されるが、消費者にとっては対象範囲は難解で、増税直後は多少の混乱もあるのではと危惧している。過去の増税時には買いだめの動きがあったが、今回はその動きがあまりないようだ。筆者の場合は軽減税率対象とそうでないものを考えるのは面倒だから、それなら、無駄と思えるものを徹底的に洗い出しして、支出を極力抑えようと考えている。

おそらく度重なる増税に疲れ果てて、筆者と同じように考える方が増えているのはと考える。そうなれば消費が更に低迷して景気が悪化、政府は景気対策を余儀なくされ、国の支出が増えて財政は更に悪化するだけ。負のスパイラルから抜け出せないことを政策当局者も実感すべきだ。



### 企業レター

## 20億個の冷凍餃子製造

### イトアンド

### 関西工場製造開始10周年迎える



イトアンド関西工場

イトアンド(2882)は、2009年8月25日から製造

開始した冷凍食品が製造開始10周年を迎えた。現在「大阪王将」の「大阪王将」の冷凍餃子製造を開始した。2007年3月に大阪王将の冷凍餃子(たれ2個)、2011年3月に具材が全て国産の大阪王将の冷凍餃子、2014年8月に調理の際に油・水いらずの大阪王将の冷凍餃子を投入。

そして、2018年8月に油・水・フタいらずの大阪王将の冷凍餃子へとリニューアルし、イトアンド関西工場では現在に至るまで、約20億個の冷凍餃子を製造してきた。

この植物工場システムは、大和ハウスがこれまで永年培ってきた工業化建築の技術力と、三協立山が高度な栽培技術の融合により独自開発した「送風システム」や「養液管理システム」と、エアコンなどの設備機器を組み合わせて、最適な栽培環境を整備。「高歩留・高収量・高回転」を実現するとともに、安心の「栽培サポートプログラム」も

## オーダーメイドの植物工場

### 大和ハウス 三協立山と共同開発



植物工場の試験設備

大和ハウス工業(1925)と三協立山(5932)は、「農業の工業化」を推進するため、オーダーメイドで工場や倉庫などに設置可能で、事業化への対応も見据えた植物工場システム「agricuube ID (アグリキューブ・アイディー)」を共同開発、10月1日から全国販売を開始する。

小規模から、大規模まで多様な事業計画に対応する。

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

「売り飽き」で買戻し

過去最高の裁定売り残

先週の日経平均はトランプ氏の対中関税「第4弾」により週初は安く始まったが、6日の安値（2万0110円76銭）を割り込まなかった

ユートラルであるが、裁定取引の解消される時に引き過ぎる傾向がある。大暴落の背景には必ずこの裁定取引の買い残が多いときに起こっている。裏を返せば金利などが上昇傾向にあるときは今回は売り残の解消で意外高する可能性があるということだ。

9月のFOMCで金利の引き下げが確実視されているが、下げ幅によってはこの裁定取引の解消を誘発する可能性もあろう。相場はまだ「風説の流布」ともとれるトランプ氏の発言で右往左往するかもしれないが、相場自体は「売り飽き」モードに入ってきているようだ。売りのピークは過ぎたように思われる。

チャートの的にはボリンジャーバンドが急速に収斂しており、動きにくい展開が想定される。現在、△2.0が2万0917円、▼2.0が2万0900円。上値は2万0900円台に半値

最近話題なのが裁定取引の売り残が過去最高水準になつてきているということである。裁定取引の売り残や買い残は現物株と先物の価格差に着目した取引で生じ、金利を考慮した先物価格が現物株に比べ割安だと見れば先物を買って現物を売る。その結果裁定取引の売り残が増加するのだ。直近で売り残は1兆6293億円と4週連続で過去最高水準を更新している。裁定取引自体は相場にはニ

ユートラルであるが、裁定取引の解消される時に引き過ぎる傾向がある。大暴落の背景には必ずこの裁定取引の買い残が多いときに起こっている。裏を返せば金利などが上昇傾向にあるときは今回は売り残の解消で意外高する可能性があるということだ。

9月のFOMCで金利の引き下げが確実視されているが、下げ幅によってはこの裁定取引の解消を誘発する可能性もあろう。相場はまだ「風説の流布」ともとれるトランプ氏の発言で右往左往するかもしれないが、相場自体は「売り飽き」モードに入ってきているようだ。売りのピークは過ぎたように思われる。

チャートの的にはボリンジャーバンドが急速に収斂しており、動きにくい展開が想定される。現在、△2.0が2万0917円、▼2.0が2万0900円。上値は2万0900円台に半値

今週のスケジュール

- ・ 30日 米7月個人所得・個人支出 (21:30)
- ・ 31日 中国8月製造業PMI
- ・ 1日 米政府は中国製品(一部除外)に追加関税を課す対中制裁関税第4弾を発動
- ・ 2日 4-6月期法人企業統計(8:50)  
8月自動車販売台数(14:00)  
米休場
- ・ 3日 8月マネタリーベース(8:50)  
米8月ISM製造業景況指数(23:00)
- ・ 4日 米7月貿易収支(21:30)
- ・ 5日 米8月ADP雇用統計(21:15)  
米8月ISM非製造業景況指数(23:00)
- ・ 6日 7月家計調査、7月毎月勤労統計調査(8:30)  
7月景気動向指数(14:00)  
米8月雇用統計(21:30)

今週は「売り飽き」による買戻しを期待したい。(ハチロク)

前週は秋雨前線の影響で雨の日が多かった。おかげでうだるような暑さからは解放されたが、台風11号に刺激された前線が九州北部に記録的な大雨をもたらした。甚大な被害が出ている。ただ、秋雨前線は梅雨前線ほど強い停滞前線ではなく長続きはしない。短い時間に強い雨を降らせる寒冷前線から弱い雨の温暖前線、前線とまでいかない気圧の谷になり消えていくという。東京市場は薄商いに膠着感の強い展開が続いているが、9月相場では秋晴れのようなスカツとした上放れを期待したい。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。